

經濟論叢

第156卷 第6号

野村秀和教授記念號

献 辞	菊池光造	
井尻教授の双対的解釈についての考察	中居文治	1
予算管理史研究の評価と課題	斎藤雅通	15
ヨークベニマルの研究	奥村陽一	32
中小金融機関の経営破綻と監督システム	櫻田照雄	69
標準原価計算の差異分析と原因分析	上總康行	103
会計測定モデル分析をめぐる 理論問題の再検討	藤井秀樹	125
アメリカ年金会計における認識と測定の論理	佐野哲哉	160

野村秀和 教授 略歴・著作目録

平成7年12月

京 都 大 学 經 濟 學 會

献 辞

野村秀和先生は、1995年10月25日に63歳の誕生日を迎えられ、1996年3月31日をもって本学を退官されることになりました。

先生は、1958年に京都大学経済学部を卒業、大学院に在学された後、教官として本学部に残られ、やがて管理会計論の講座をご担当になって今日に到られました。

先生の研究領域はきわめて広範囲に及びますが、とくにアメリカにおける標準原価計算の生成・発達史の研究、分析会計学の方法論の研究、非営利事業体の経営・管理問題の研究において、多くの先駆的な業績を残されました。先生のご研究の方法論上の最も大きな特徴の1つは、会計学と経済学の理論的接合を、つねに研究と実践の緊張関係を見据えながら、図ろうとされてきた点にあるといえましょう。このような方法論にもとづいて展開された先生のご研究は、「野村会計学」として、学会等において高く評価されています。そしてまた、日本会計研究学会評議員や会計理論学会幹事を歴任されるなど、わが国の会計学の発展と革新に貢献されています。

他方、先生は、研究と教育にとどまらず、行政面においても、評議員、経済学部経営学科長の重責を果たされ、本学及び本学部の発展のために多人の貢献をされました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功勞とご業績に対して、心からの敬意と感謝の念をこめて、ここに記念号を編集いたしました。先生のご指導を受けられた研究者のうち若干名の労作を集めて、先生に捧げることができましたことは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のために、またさらに広く社会のために、ご活躍くださいますよう、心からお祈りいたします。

1995年11月5日

京都大学経済学部長 菊池光造